

大規模健診機関における血管指標(API・AVI)研究

岡本将輝

東京大学大学院医学系研究科 健康医療政策学・公衆衛生学分野

動脈硬化は種々の深刻な臓器障害を引き起こすものであり、この予防・早期診断は高齢化の進展に伴って益々重要性を高めている。既存の動脈硬化指標に比べ、より簡便・非侵襲的な測定が可能であるAPI・AVIであるが、エビデンスの蓄積は現時点で十分とは言えない。これら指標の臨床的有効性を一般健常者において検討するため、青森県八戸市に所在する大規模健診機関と共同した研究を行っている。本健診機関の特性を活かした研究デザインの概要と展望に加え、2014年4月から8月の間に研究同意の得られた4149例の横断データを用いたAPI・AVI測定の信頼性と妥当性評価についても併せて紹介する。

第1回日本血管血流学会学術集会